現職研修奨励事業（グループ）概要

田布施町立麻郷小学校

1　研修主題

授業力や学級経営力の向上を目指し、人間力を磨き合えるチームづくり

2　研修活動の目的

教育技術の伝承や向上だけでなく、人間力の向上を見据えた互いを高め合う研修を行うことで、教職員全体の資質向上とチーム力向上につなげる。

3　研修の概要

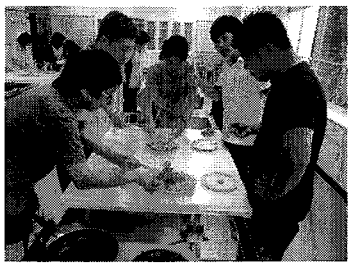
（1）互楽の会

月に２回程度、「互楽の会」として放課後に実施。研修期日、研修内容、講師の順番などについては、学びプロジェクトチームで調整した。全教員が、同僚の教師を相手に１人１回以上講師を務める。一人一講師に取り組むことで、自分の強みを確認するとともに、説明力の向上を図ることや互いの人間力を高めることを目的に実施した。以下に主な実践を紹介する。

①　特別支援教育「通級指導教室ってどんなところ？」

通級指導教室担当教員より、初めに教室環境や基本的な指導内容について説明を受けた。次に吃音についての○×クイズを行った。答え合わせをしてみると、案外分かっていなかったこともあり、より正確な理解が必要であると感じた。また、田布施町で配付されているリーフレットにも触れ、通級までの流れを確認した。

②　調理実習「広島風お好み焼き」



昨年まで広島県で勤務していた若手教員が、広島県の食文化を紹介した。山口県では、おたふくソースがよく使われるが、カープソースもあるということで、２社のソースの違いに触れたり、実際に食べ比べたりした。その後、家庭科室で他の教員が児童役となり、調理実習を行った。キャベツの乗せ方や生地の広げ方など、ポイントを押さえながら調理した。男性陣の方が思い切りがよく、手際よく進められるなど、和気あいあいとした雰囲気の中で行うことができた。

③　「ことば」の指導について

経験豊富なベテラン教師が、これまで関わってきた子どもたちの姿や言葉から自分の指導を見つめ直した経験を紹介した。

・漢字の壁は、２年生１学期であること
　→学習する数が格段に増える。部首など、分解して見る目をもたせる。
・漢字には、ひらがなやカタカナと違い、二通りの読み方があること

→漢字には意味がある。意味と漢字とを結びつけて学習させる。

・ひらがなの言葉かカタカナの言葉かの区別がつきにくいこと

→１年生１学期までは、すべてをひらがなで書いている。カタカナの言葉はカタカナで見せるようにする。　等

若手教師は、この分析に大きくうなずきながら聞いていた。２年生の担任だけでなく、どの学年でも意識しなければならない内容だった。

④　読書のすすめ

せっかく読書をしても、すぐに内容を忘れてしまう。そうならないための読書記録の仕方を読書家の教員が紹介した。読んだ期間、本の題名、あらすじ、感想の欄を設け、記録していく。短くても感想の欄を設けるとそこを読んだだけで、内容を思い出しやすくなるとのことだった。記録に留まらず、達成感にも繋がるのでよい方法だと思った。また、子どもが本好きになるための方法として、すぐに本が手に取れる環境作りや読み聞かせ、月に１回は本を借りたり買ったりするなど、本との距離を近づける環境作りの大切さを紹介した。

また、別の教員からは、東田直樹などの本の紹介があった。特別支援教育担当ということもあり、障害のある児童理解の本など、大変参考になった。本校では、職員室に読んでみるとよいおすすめの本がいくつか随時展示してあり、手にとって読むことができる。児童に限らず、いつでも手にとって本を読める環境はとてもありがたいと思った。

⑤　保護者とのよりよい関係づくり

近年、保護者への対応が難しく、若手教員も困ってしまう場面がある。子どもたちの学習への環境づくりには、保護者とのよりよい関係が不可欠である。年度始めの懇談会では、保護者と学校は相反するものではないこと、子どもたちをよりよく伸ばすという目標に向かって共に同一方向を向いて進めようと話していることなど紹介した。また、共感や労い、困り感の共有、感謝の言葉や子どもへの愛情など、話を聞くときのポイントなどを挙げた。保護者への支援も念頭に入れることで、よりよい関係づくりができるのではないかと思った。

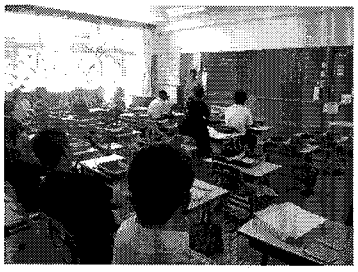
⑥　教師の教育実践チェック

研修担当が前任校で取り組んでいた授業でのレベル向上をめざし作成したチェック表をもとに、今現在、自分がどの程度実践できているかをチェックしていった。「チャイムと同時に授業を始める」「黒板に本時のめあてを明記している」など、基本的な所からまずは確実に実践できるようにしていきたいものである。今後若手教員が増えることを見据え、授業力向上に繋がる実践を一覧にしていつでもチェックできるようにしていきたい。

⑦　テニス「play　&　stay」

体育科学習指導要領解説にネット型ゲームの例として、３・４年「バトミントンやテニスを基にした優しいゲーム」５・６年「バトミントンやテニスを基にした簡略化されたゲーム」と記載されている。このことを受け、学生時代にテニスのコーチを経験した教員が、簡単なテニスの指導方法について紹介した。ボールやラケット、コートの大きさを変えて簡単にプレーできる「play　&　stay」というプログラムを紹介。「テニピン」というテニスを基にした授業実践についても紹介した。体育の実践として早速使えそうだと好評だった。

⑧　黒板の使い方



黒板に文字を書く時に「どうしても曲がってしまう。」「読みやすい文字が書きたい」との意見を受け、板書のポイントを紹介した。縦書きの時は、文字の中心をリーダー線に合わせること、横書きの時には、文字を下のラインに合わせること、ひらがなと漢字では、ひらがなを小さめに書くことなどを紹介し、実際に黒板を使って書く練習をした。また、１年生の文字黒板を使い、どこの枠を通れば手本通りに書けるかということも意識すると良いことなど教わった。その他にも書くスピードや色チョークの使い方など、板書の技術は案外、若手教員には分かっていないことも多い。機会を設けては積み重ねていくと良いと思った。

⑨　漢字指導

従来の漢字指導では習得が難しいと感じ、改善を試みた教員がその実践について紹介した。まず習得が難しい原因として「漢字の学習に受け身である。」「単に書いているだけで、定着のためのアウトプットができていない。」ということが考えられたため、

・漢字ドリルを自分のペースで進める。
・新出漢字の定着を空書きで個別にチェックする。
・毎時間、漢字ドリルの読みを音読する。

などの実践をすることで、大きな効果が得られた。実際に児童役をしながら体験したが、緊張感をもつことで覚えようとする意識が高まったり、声や体を使ってアウトプットすることで定着に繋がったりすると思った。

⑩　リラクゼーション

肩こりや首こりの解消のためのプログラム。リラクゼーションに詳しい教員が、プログラムを紹介した。首にはたくさんのツボがあり、全体をよく揉むことにより、血流がよくなり、動きやすくなってすっきりするとのことだった。話を聞いた後に、全員で実際に取り組んだ。ゆったりとした時間が流れ、身も心もリラックスでき、本当にすっきりした。

同じように肩甲骨を柔らかく動かすことでも老化防止に繋がるとのことで、皆一生懸命に体を動かしていた。

⑪　手品

野外活動に積極的に取り組んでいる新規採用教員が、時々アイスブレイクの要素として手品を取り入れた導入を行ってる。今回は、お金を使った手品を紹介した。初めに両手に１枚ずつお金を入れ、握った手の甲に更に１枚ずつ載せておく。それをキャッチするとなぜか片方の手には３枚のお金が入っているというものだった。全員で種明かしを考えた後、実際にできるか試してみた。なかなか相手に分からないように手先を器用に動かしていくというのは難しいと思った。

（２）先進校視察による研修

幼保小連携に係る先進校視察による研修を行った。２年生と年長児の交流の様子から、色々な人とよりよく関わろうとする児童を育てる大切さを確認した。幼保小との連携の在り方として、活動前後の内容の確認、子ども達の様子や互いの見取りの確認、情報交換などが挙げられた。写真記録やエピソード記録を蓄積していく必要がある。また、それぞれの願いの共有をすることも大切である。今後、息の長い交流が図られるよう、幼稚園の先生方としっかり連絡を取り合いながら、研修を進めていきたい。